



2018年 埼玉の 食料・農林業・農山村



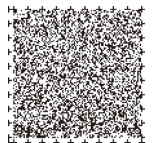
埼玉県マスコット
「ヨバトン」



埼玉県マスコット
「さいたまっち」



音声コード (SPコード)



彩の国
埼玉県



活字文書読み上げ装置で、情報を音声で聞くことができます。



本県は恵まれた自然条件と、大消費地である首都圏の中にある産地という「地の利」を生かし、野菜、米、麦、花き、果樹、畜産など多彩な農産物が生産されています。特に、小麦は産出額が全国第3位、花きは同じく第4位、野菜は同じく第7位と、全国でも有数の産地となっています。また、県土の3分の1を占める森林は木材を供給するだけでなく、水源の涵養、二酸化炭素の吸収・貯蔵などにも大きな役割を果たしています。

農林業・農山村は、食品産業や観光業などと結びつき、地域の経済や県民生活に活力をもたらす役割も担っています。また、県土の保全や水源涵養、美しい風景や伝統文化の維持・形成など通じて県民の安全で豊かな暮らしにも寄与しています。

一方、農業従事者の高齢化が進む中で農業生産を維持・発展させていくためには、新たな担い手を確保するとともに経営力の高い農業経営体を育成することが重要となっています。また、経済のグローバル化を背景に、農業分野においても国内外の産地間競争が一層激しくなることが予想されています。

県では、こうした環境の変化に的確に対応し、農林業・農山村の持続的な発展を図るため、「埼玉農林業・農山村振興ビジョン」を策定し、農林業の稼ぐ力、農林業に係わる人財力、農山村の地域力を高める取組を進めています。

農林業の「稼ぐ力」を高めるため、食品製造業者など実需者からの要望に応えるオーダーメイド型産地の育成やAIなど先端技術の活用による生産性の向上、伐採時期を迎えた森林の皆伐・再造林による県産木材の増産と利用拡大などに取り組みます。

また、農林業に係わる「人財力」を高めるため、農家子弟を含めた多様な担い手の確保・育成や農業経営法人化の推進、先端的技術の導入による農業大学校教育の充実などに取り組みます。

さらに、農山村の「地域力」を高めるため、中山間地域の未利用農地を活用した地元農産物の高付加価値化や魚の放流と外来魚・カワウ駆除による魚影豊かな川づくりなどに取り組みます。

こうした取組を通じて、本県農林業の成長産業化と農山村の持つ様々な機能の充実を図り、豊かで安らぎある県民生活の実現を図ってまいります。

この冊子は、埼玉農林業の現在の姿や平成30年度の主な施策をグラフや写真を使ってまとめたものです。県民の皆様をはじめ多くの方々のご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

平成30年7月 埼玉県知事 上田清司

目次

1	本県の概要	1
2	全国的にみた埼玉農林業の地位	2
3	埼玉農林業の構造	3
4	農業生産の現状	7
5	平成30年度の主な食料・農林業・農山村施策	13

埼玉県のシンボル



県章



県民の鳥「シラコバト」



県の木「ケヤキ」



県の花「サクラソウ」



県の蝶「ミドリシジミ」



県の魚「ムサシトミヨ」

1

本県の概要

- 全域が都心から 100km 圏内
- 海のない内陸県
- 県土面積は国土面積の約 100 分の 1
- 県土面積に占める河川の割合は 3.9% で日本一
- 人口は全国の 5.7% を占め全国第 5 位、平均年齢は全国で 6 番目に若い
- 内陸性の太平洋側気候、温暖で自然災害が少ない
- 関東地方の主要な社会・経済拠点として将来の更なる発展が期待

主要指標

県 域	東西 108km 南北 70km
県 土 面 積 (平成 29.10.1)	3,798km ² (全国の 1.0%)
総 人 口 (平成 30.4.1)	7,310,878 人 (全国の 5.7%)
総 世 帯 数 (平成 30.4.1)	3,084,446 世帯
平 均 年 齢 (平成 27.10.1)	45.4 歳 (全国で 6 番目に若い)
名目県内総生産 (平成 27 年度)	22 兆 3,323 億円
1 人当たり県民所得 (平成 27 年度)	297.7 万円
気 象 (熊谷気象台平年値)	平均気温 15.0℃ 年降水量 1,286.3mm

(総務省「国勢調査」 県土地水政策課「土地利用現況把握調査」 県統計「県民経済計算」)



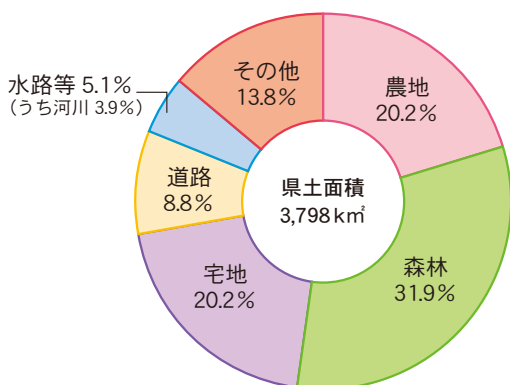
(県土地水政策課「土地利用現況把握調査」)



名称) は中区分、それ以外は小区分
山地 丘陵 台地 低地

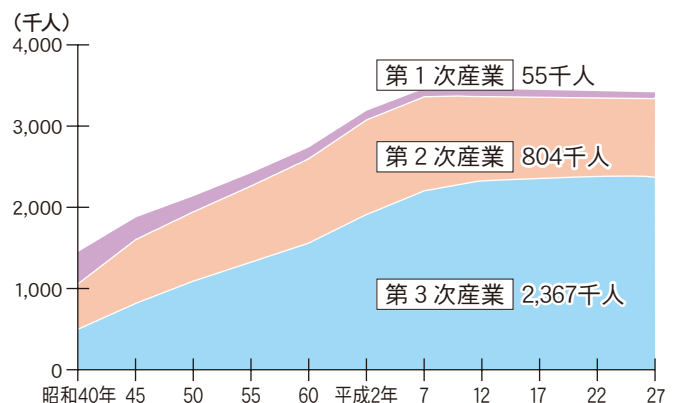
(「埼玉県の地形区分と名称図」1975 村本達郎氏による)

土地利用状況 (平成 27 年)



(県土地水政策課「土地利用現況把握調査」)

産業別就業者数の推移



(総務省「国勢調査」)

埼玉農業の有利な点

高い耕地率

自然災害が少なく穏やかな気象

大消費地の中の生産地

◆ 農 業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点		
				全国比率(%)	順位			
農家	総農家	戸	64,178	2,155,082	3.0	8	* 1 平成 27 年 2 月 1 日	
	販売農家	戸	36,743	1,329,591	2.8	14		
	専業農家	戸	12,474	442,805	2.8	10		
	第 1 種兼業農家	戸	4,042	164,790	2.5	19		
	第 2 種兼業農家	戸	20,227	721,996	2.8	13		
	自給的農家	戸	27,435	825,491	3.3	8		
	農業就業人口	人	58,575	2,096,662	2.8	12		
耕地	耕地面積	ha	75,200	4,444,000	1.7	17	平成 29 年 7 月 15 日	
	田	ha	41,600	2,418,000	1.7	23		
	畑	ha	33,500	2,026,000	1.7	13		
	1 戸当たり耕地面積	ha	1.17	2.06	—	—		* 1 平成 29 年
	耕地利用率	%	89.3	91.7	—	23		平成 28 年
農業生産	農業産出額 * 2	億円	2,046	92,025	2.2	18	平成 28 年	
	米	億円	382	16,549	2.3	16		
	野菜	億円	1,047	25,567	4.1	7		
	畜産	億円	295	31,626	0.9	30		
	生産農業所得	億円	828	37,558	2.2	18		
	生産農業所得率 * 3	%	40.5	40.8	—	25		
食料自給率	カロリーベース	%	10	39	—	44	平成 27 年度 (概算値)	
	生産額ベース	%	21	66	—	44		

* 1 「農林業センサス」

(農林水産省調べ)

* 2 農業産出額及び生産農業所得の全国値は都道府県の合計値とは異なる。なお、全国比率は都道府県の合計に対する割合である。

* 3 生産農業所得率：農業粗収益に対する農業所得（物的経費等を考慮したもの）の比率のこと。

生産農業所得率＝（農業粗収益－物的経費－間接税＋経常補助金）÷農業粗収益×100

■ 品目別産出額の全国順位（平成 28 年産）

	さといも	こまつな	ねぎ	ほうれんそう	かぶ	きゅうり	ブロッコリー	はくさい	ゆり	パンジー	チューリップ	洋ラン(鉢)
1 位	埼玉	埼玉	千葉	千葉	千葉	宮崎	北海道	茨城	埼玉	埼玉	新潟	愛知
2 位	千葉	茨城	埼玉	埼玉	埼玉	群馬	香川	長野	高知	神奈川	埼玉	埼玉
3 位	愛媛	福岡	茨城	群馬	青森	埼玉	埼玉	埼玉	新潟	千葉	富山	福岡
4 位	鹿児島	東京	北海道	茨城	滋賀	千葉	長野	北海道	鹿児島	茨城	福岡	山梨
5 位	栃木	群馬	大分	岐阜	京都	福島	愛知	栃木	北海道	静岡	北海道	千葉

*このほかにも、みずな、カリフラワーなど多くの品目が生産されている。

(農林水産省調べ)

◆ 林 業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点
				全国比率(%)	順位	
林家 * 1	戸	7,104	828,973	0.9	41	平成 27 年 2 月 1 日
森林面積 * 2	ha	119,787	25,081,390	0.5	41	平成 29 年 3 月 31 日 (全国は平成 24 年 3 月 31 日)
天然林		58,822	13,429,342	—	—	
人工林		59,448	10,289,403	—	—	
その他		1,517	1,362,645	—	—	

(* 1：農林水産省「農林業センサス」 * 2：県森づくり課調べ、天然林、人工林、その他は推計値、全国は農林水産省調べ)

◆ 関連産業

項目	単位	埼玉県	全国	本県の地位		時点	
				全国比率(%)	順位		
直売	有人直売所設置か所数	か所	279	—	—	平成 29 年 3 月 31 日	
	有人直売所販売金額	億円	277	—	—		
市場	卸売市場数 * 1	か所	32	1,145	—	平成 30 年 4 月 1 日 (全国は平成 27 年度)	
	卸売市場取扱金額 * 1	億円	1,428	71,032	—	平成 28 年度 (全国は平成 27 年度)	
食品製造	食料品製造出荷額 * 2	億円	16,406	262,114	6.3	2	平成 27 年
	物菜		818	9,871	8.3	2	
	アイスクリーム		592	3,574	16.6	1	
	和風めん		323	2,834	11.4	1	
	野菜漬物		225	3,309	6.8	3	
	清酒		155	4,350	3.6	5	

(* 1：農業ビジネス支援課調べ、全国は農林水産省調べ)

* 2：経済産業省「工業統計表(品目編)」、「経済センサス－活動調査」

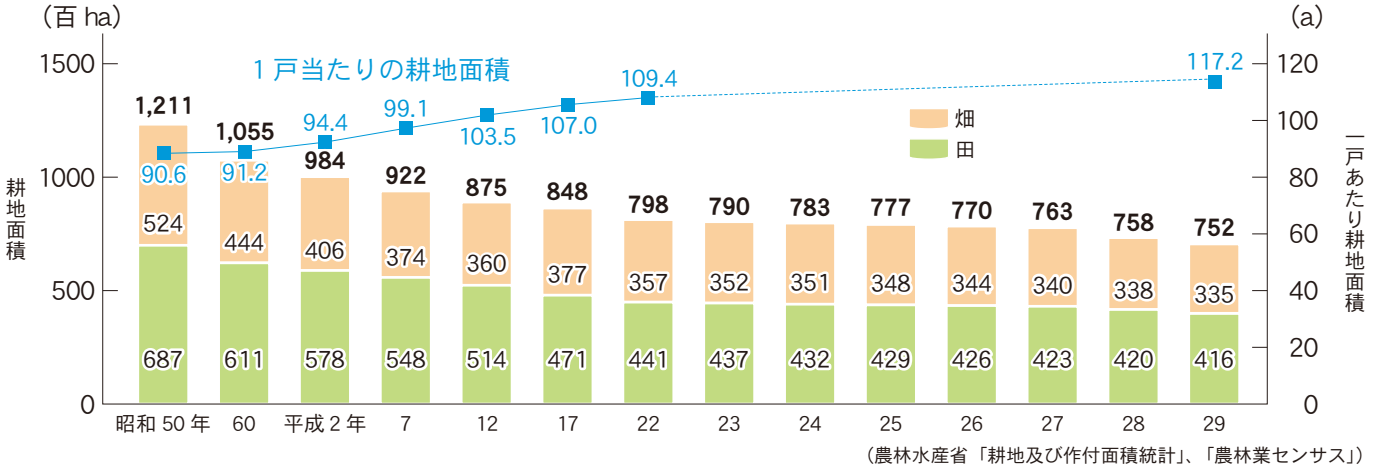
3

埼玉農林業の構造

◆ 農 業

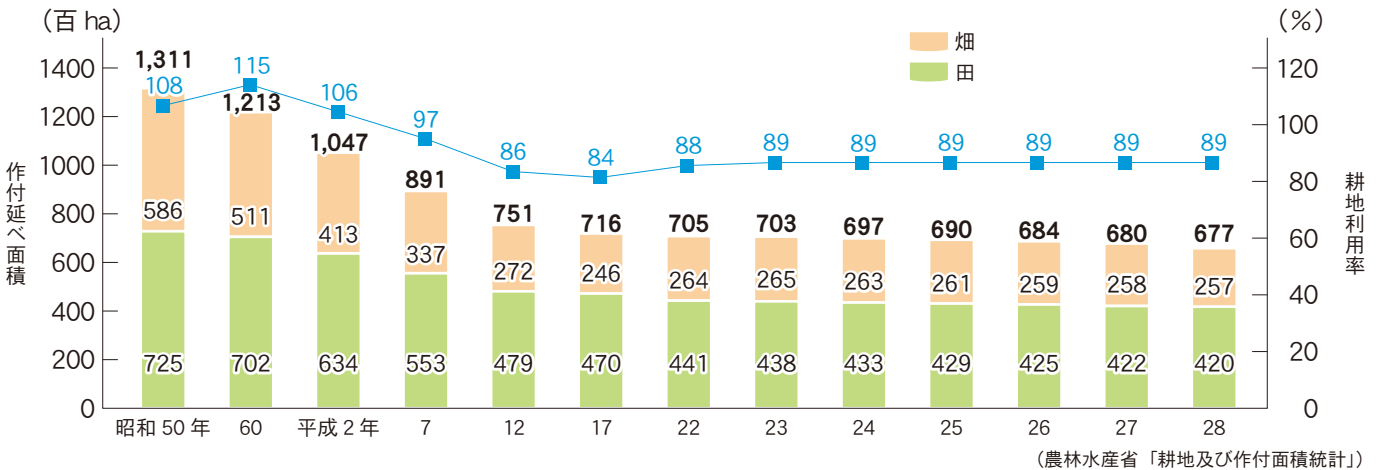
- 耕地面積は 75,200ha（田が 41,600ha、畑が 33,500ha）。
- 耕地率（県土面積に占める耕地面積の割合）は、19.8%で全国第 4 位。

耕地面積の推移



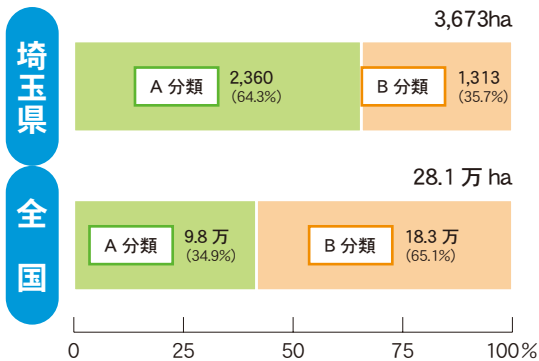
- 作付延べ面積は 67,700ha（田が 42,000ha、畑が 25,700ha）。
- 耕地利用率は 89%でほぼ横ばい。

作付延べ面積と耕地利用率の推移



- 荒廃農地面積は 3,673ha

荒廃農地面積（平成 28 年）

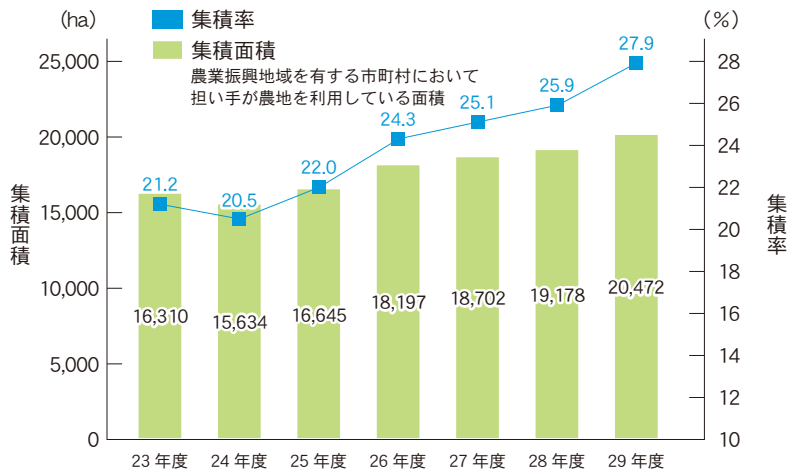


- A 分類 再生利用が可能な荒廃農地
- B 分類 再生利用が困難と見込まれる荒廃農地

(農林水産省「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査（平成 28 年）」)

- 担い手の農地利用集積面積は 20,472ha

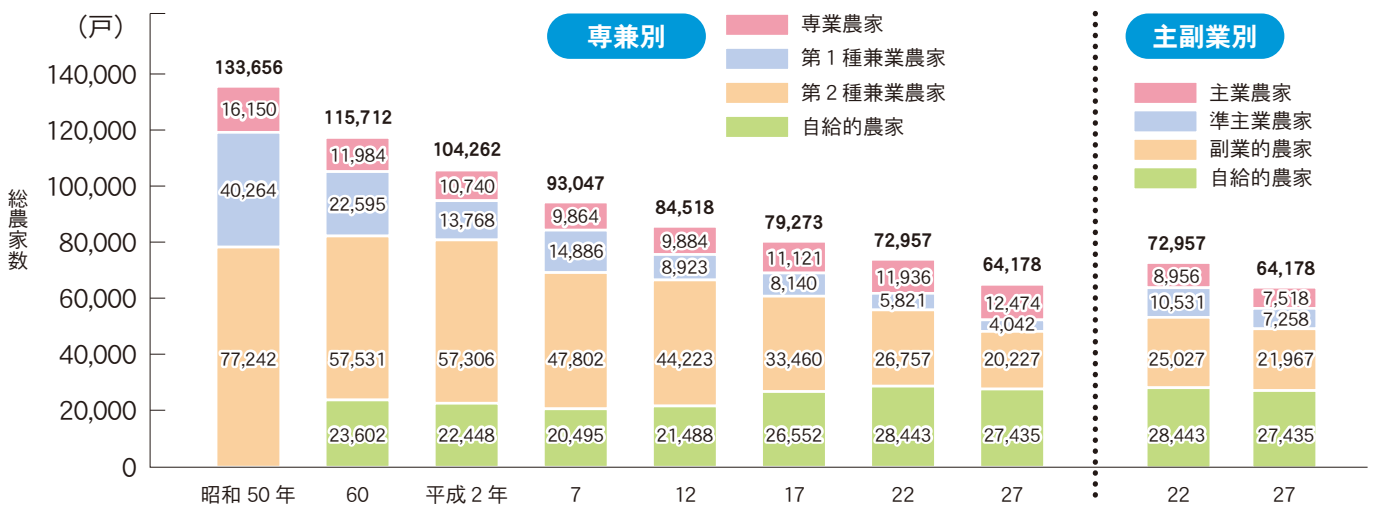
農地利用集積面積の推移



◆ 農 家

● 総農家数は 64,178 戸。

総農家数の推移

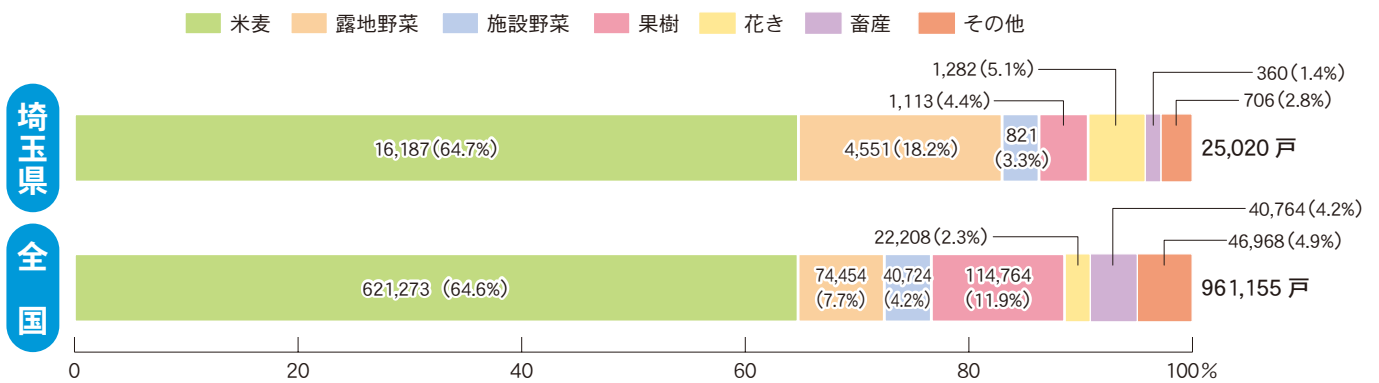


* 専業農家……世帯員中に兼業従事者が一人もいない農家。
 * 第1種兼業農家……農業所得を主とする兼業農家。
 * 第2種兼業農家……農業所得を従とする兼業農家。
 * 主業農家……農業所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいる農家。

* 準主業農家……農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいる農家。
 * 副業的農家……65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいない農家。
 * 自給的農家……経営耕地面積が30a未満で、農産物販売金額が50万円未満の農家。

● 経営部門別の販売農家数（単一経営）は、全国に比べて野菜、花き部門が多い。

経営部門別販売農家数（単一経営）（平成27年）

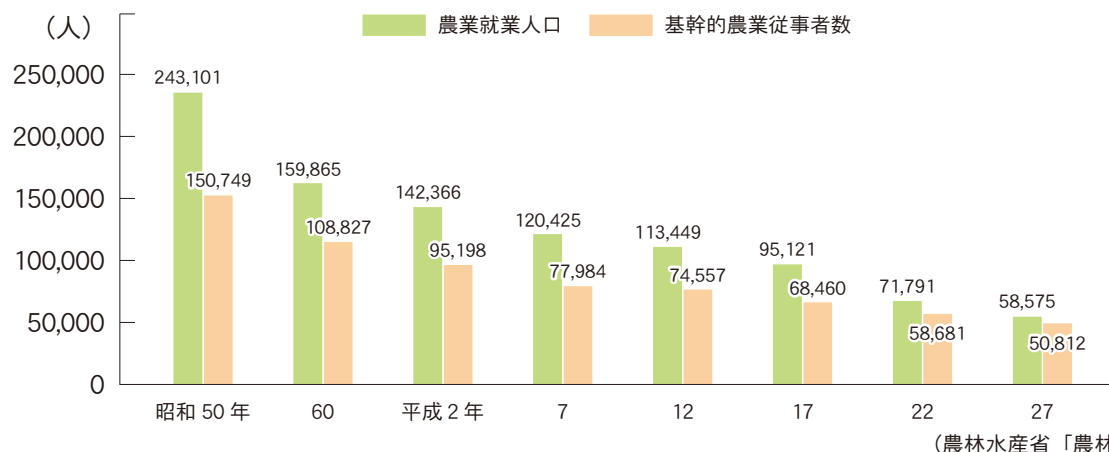


(注) 販売農家（経営耕地面積 30 a 以上または農産物販売金額 50 万円以上の農家）のうち実際に販売があった農家。（農林水産省「農林業センサス」）

◆ 農業労働力

● 農業就業人口は 58,575 人。（20 年間で約 50% 減少） ● 基幹的農業従事者数は 50,812 人。（20 年間で約 35% 減少）

農業就業人口・基幹的農業従事者数の推移



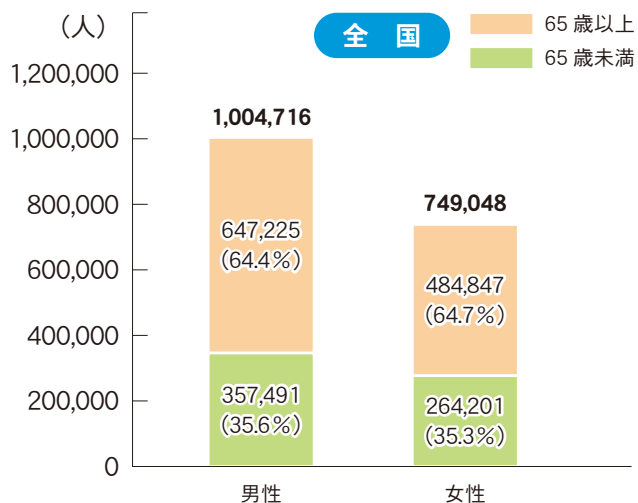
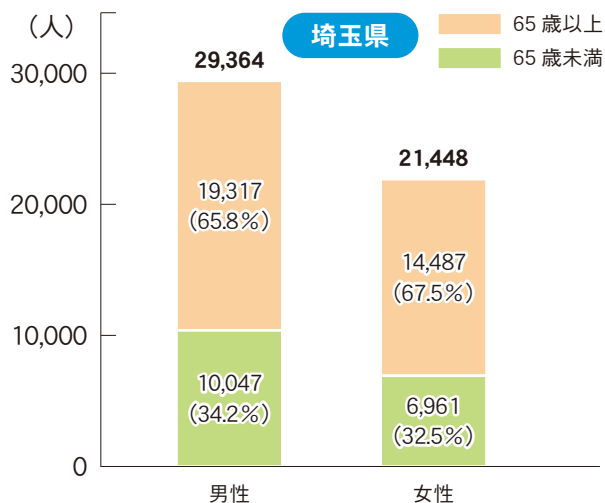
* 農業就業人口
 15歳以上の世帯員で、「農業のみに従事した者」と「農業とその他の仕事に従事したが農業の従事日数の方が多い者」の合計。

* 基幹的農業従事者
 農業に主として従事した世帯員のうち、調査期日前1年間の普段の主な状態が仕事（農業）の者。

（農林水産省「農林業センサス」）

● 基幹的農業従事者の約 65% が 65 歳以上。

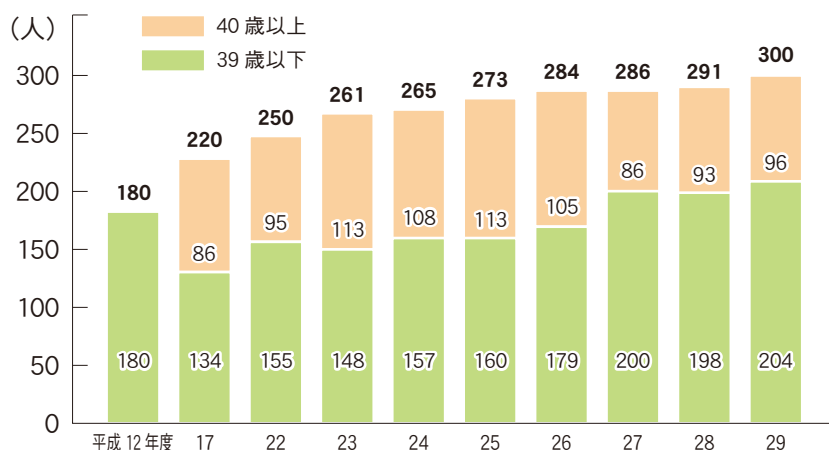
基幹的農業従事者数の性別・年齢別構成（平成 27 年）



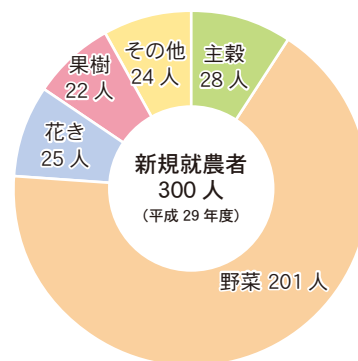
（農林水産省「農林業センサス」）

埼玉農業の担い手の推移

新規就農者数の推移

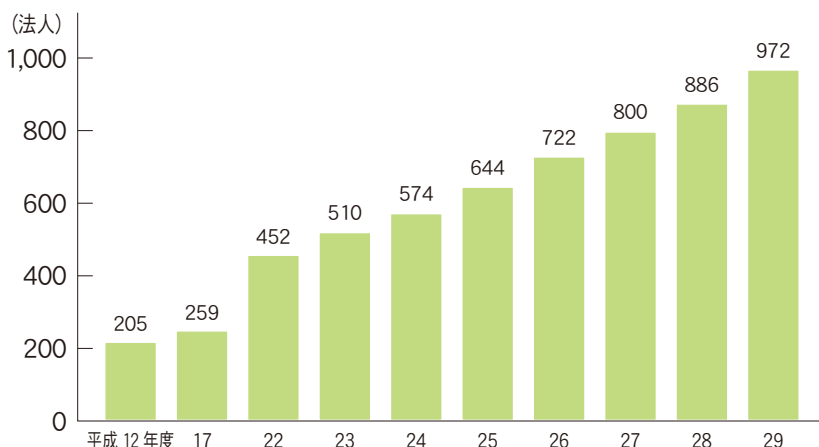


新規就農者の経営類型

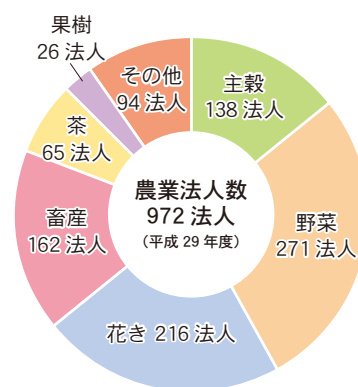


* 調査は、9 月～8 月の 1 年間

農業法人数の推移



農業法人の経営類型

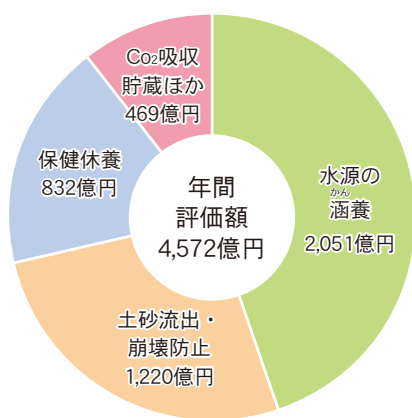


（県農業支援課調べ）

◆森林の現況

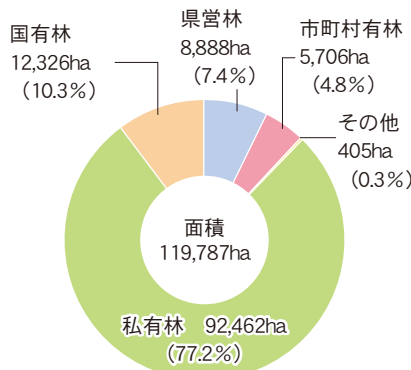
- 森林は県土面積の約 1 / 3。
- 森林は水源の涵養、土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収・貯蔵機能など多様な機能を持っています。
- 森林の所有形態別では私有林が約 8 割を占め、種類別では約 1 / 2 がスギ・ヒノキを中心とした人工林。

県内森林の公益的評価額

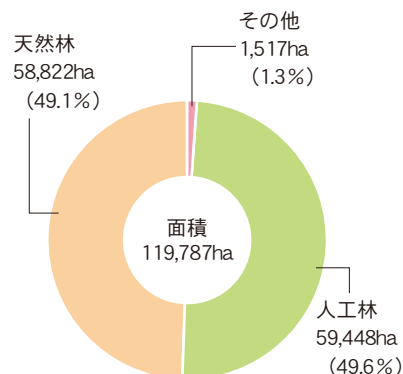


埼玉県の森林面積 (平成 29 年)

所有形態別



林種別

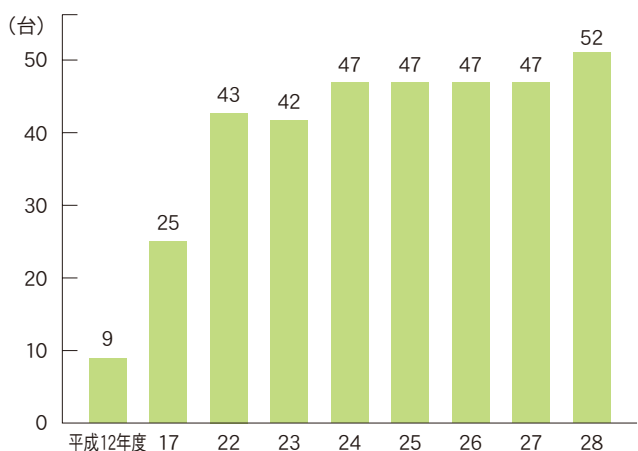


(県森づくり課調べ 林種別面積は推計値)

◆森林・林業・木材産業の取組

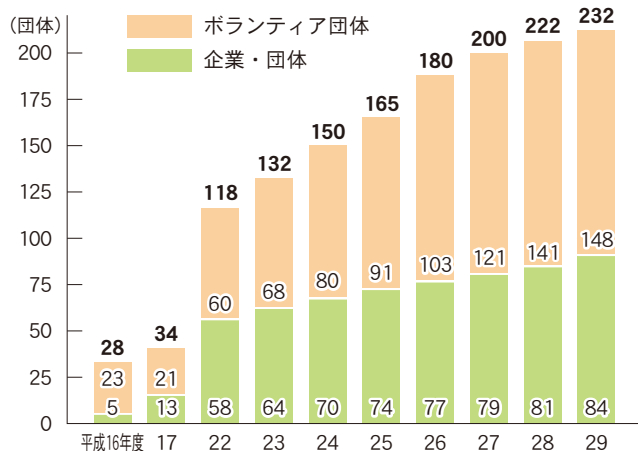
- 路網の整備、高性能林業機械の導入、低コスト造林などを促進し、林業の採算性向上に努めています。
- 植栽や間伐などの森林ボランティア活動に参加する企業や団体が増えてきています。
- 県産木材の供給量は平成 13 年度以降増加しており、平成 28 年度は 8 万 8 千 m³となっています。

高性能林業機械の導入台数



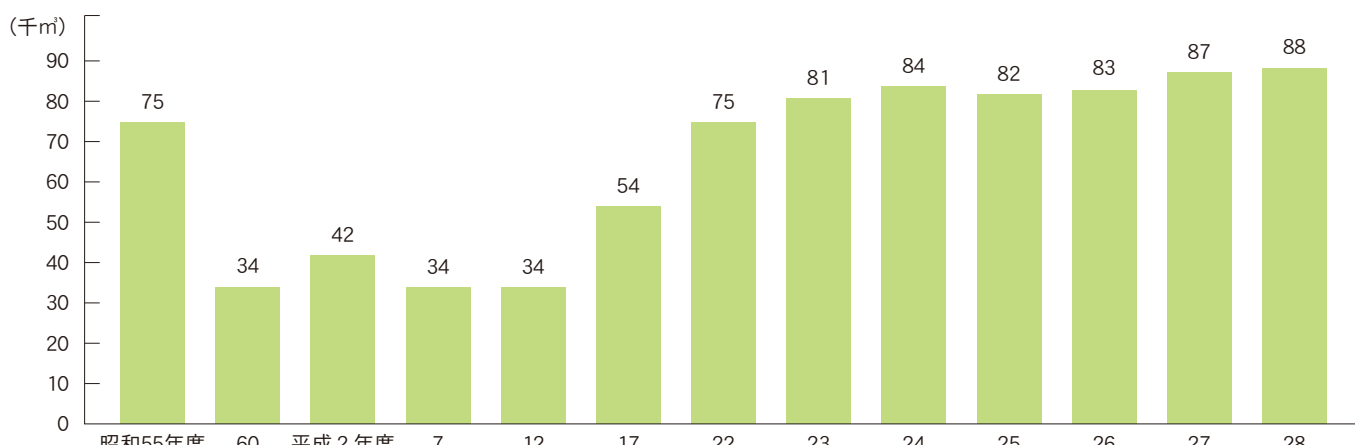
(県森づくり課調べ)

森林ボランティア活動に参加する企業・団体数



(県森づくり課調べ)

県産木材供給量の推移



(県森づくり課調べ)

4

農業生産の現状

◆平成 28 年 埼玉県農業産出額の概要

●農業産出額は 2,046 億円で全国第 18 位。

産出額が日本一のさといも、こまつなをはじめ、多くの野菜が全国トップクラス。

小麦、花き、茶等も全国有数の地位。

※（％）は全国シェア、[位]は全国順位

小麦 7 億円（全国第 3 位）

作付面積	収穫量
5,200 ha [8 位]	19,200 t (2%) [6 位]
うち さとのそら 4,060ha	
あやひかり 980ha	
その他 160ha	

*品種の内訳は県生産振興課推計値

果実 69 億円（全国第 32 位）

主な品目	産出額	収穫量
なし	35億円 [7位]	8,510 t (3%) [9位]
くり	3 億円 [7 位]	617 t (4%) [6 位]
ぶどう	10億円 [22位]	1,480 t (1%) [18位]

茶(生葉) 14 億円(全国第 8 位)

主な品種	栽培面積	収穫量 (対主産県シェア)
やぶきた さやまかおり ふくみどり	884ha [8 位]	生葉 3,060 t (1%) [12位]

花き 178 億円（全国第 4 位）

主な品目	産出額	出荷量
ゆり(切花)	39億円 [1位]	2,940万本 (21%) [1位]
パンジー(苗)	7 億円 [1 位]	1,090万本 (8%) [1位]
洋ラン類(鉢物)	30億円 [2位]	86万鉢 (5%) [5位]
チューリップ	4 億円 [2 位]	-

畜産 295 億円（全国第 30 位）

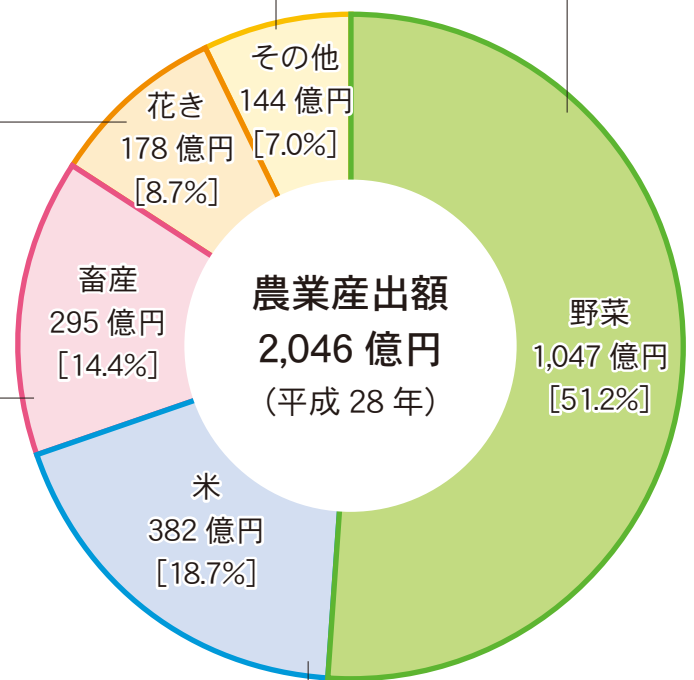
主な品目	産出額	飼養頭羽数
乳用牛	78億円 [22位]	9,640頭 (1%) [22位]
肉用牛	44億円 [34位]	17,400頭 (1%) [32位]
豚	71億円 [23位]	112,700頭 (1%) [21位]
採卵鶏	96億円 [22位]	381万羽 (2%) [20位]
		うち成鶏めす 235万羽 (2%) [22位]

※採卵鶏の産出額は鶏卵の金額

野菜 1,047 億円（全国第 7 位）

主な品目	産出額	収穫量
さといも	83億円 [1位]	18,300t (12%) [2位]
こまつな	52億円 [1位]	15,700t (14%) [1位]
ねぎ	211億円 [2位]	59,900t (13%) [2位]
ほうれんそう	108億円 [2位]	25,200t (10%) [2位]
かぶ	16億円 [2位]	17,200t (13%) [2位]
きゅうり	143億円 [3位]	47,400t (9%) [3位]
ブロッコリー	50億円 [3位]	13,900t (10%) [3位]
はくさい	25億円 [3位]	22,900t (3%) [6位]
えだまめ	35億円 [5位]	5,610t (9%) [4位]

*このほかにも、みずな、チンゲンサイ、やまのいもなど多くの品目が生産されていることが特徴。

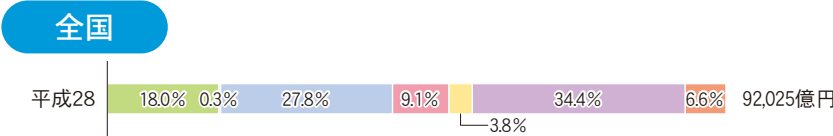
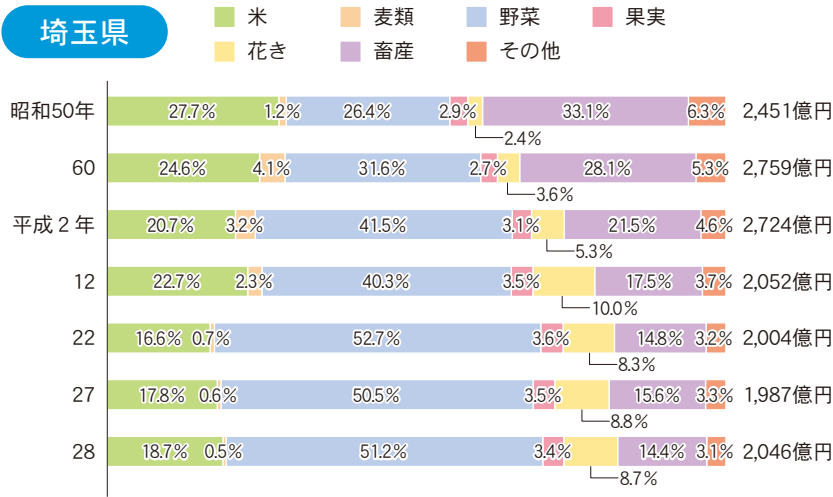


米 382 億円（全国第 16 位）

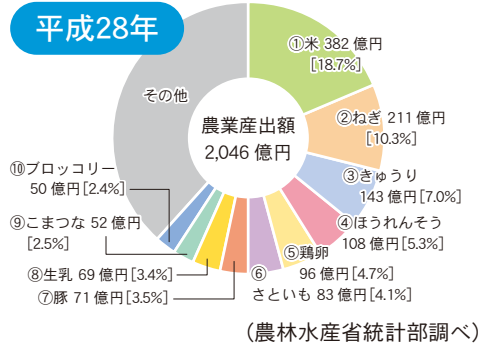
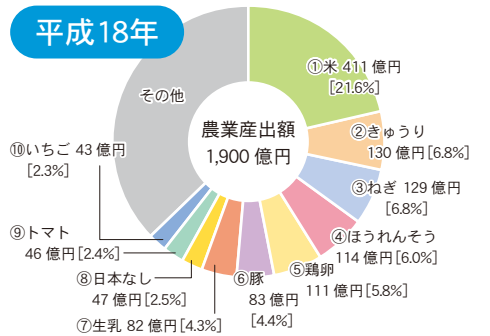
主な品種	作付面積	収穫量
コシヒカリ 彩のかがやき キヌヒカリ	31,700ha [18位]	156,600 t (2%) [19位]

※産出額、収穫量等は平成28年の値。※出典：農林水産省

農業産出額の構成比



農業産出額上位 10 品目



(農林水産省統計部調べ)

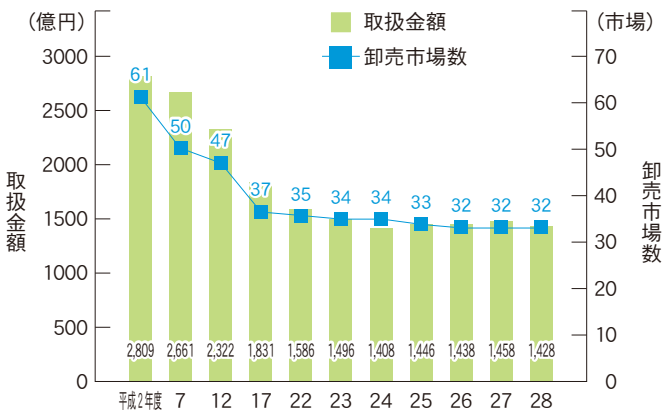
(農林水産省統計部調べ)

◆関連産業

●卸売市場における取扱金額は平成初期にピークを迎え、その後、総じて減少で推移してきたが、近年、概ね横ばい。

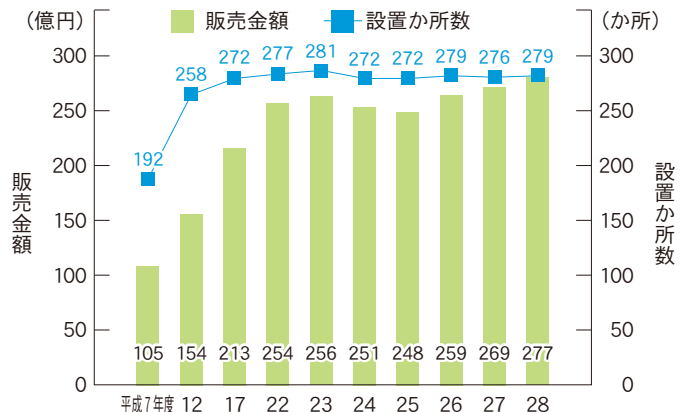
●有人農産物直売所の販売金額は 277 億円で、本県農業産出額の約 13.5% に相当。

卸売市場数と取扱金額の推移



(県農業ビジネス支援課調べ)

有人農産物直売所販売金額と設置か所数の推移

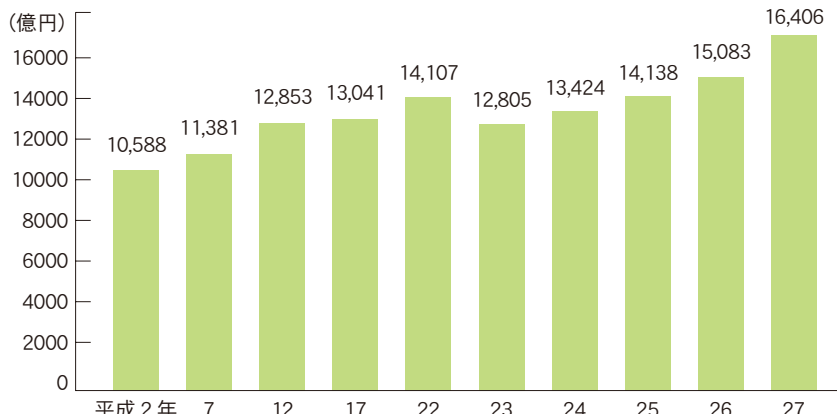


(県農業ビジネス支援課調べ)

●食料品製造出荷額は 1 兆 6,406 億円で、全国第 2 位。

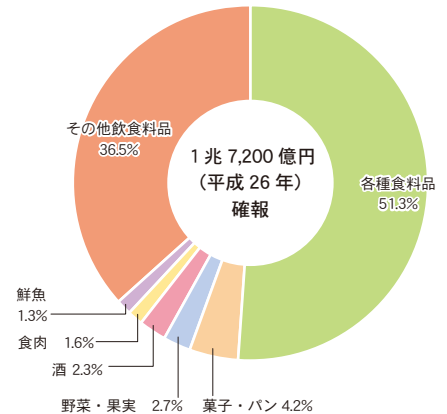
●飲食料品小売業の販売金額のうち、各種食料品が占める割合は 51.3%。

食料品製造出荷額の推移



(経済産業省「工業統計表(品目編)」、「経済センサスー活動調査」)

飲食料品小売業の販売金額



(経済産業省「商業統計(産業編)」)

◆部門別動向

米

本県の稲作は、4月に田植えをして8月に出荷する県東部地域を中心とする早期栽培から、7月初めまで田植えをして10月に出荷する県北部地域の小麦あと栽培など多岐にわたり、それぞれの地域の条件を生かした米づくりが展開されています。

中でも、本県で育成した「彩のかがやき」は、複数の病害虫に抵抗性がある特性を生かした減農薬栽培を基本に、安全・安心でおいしいお米として、多くの県民から支持されています。

また同じく本県で育成した「彩のきずな」は、減農薬による安全・安心な栽培はもちろん、もっちりとした食感が特徴のおいしいお米として、作付面積を拡大しています。

■ [29年産（水稲）]

作付面積	生産量
31,600ha (全国第18位)	156,100 t (全国第19位)

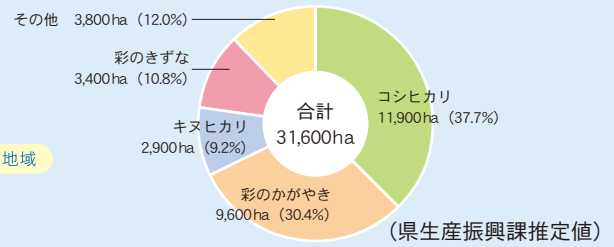
(農林水産省統計部調べ)



■地域別
水稲栽培方法



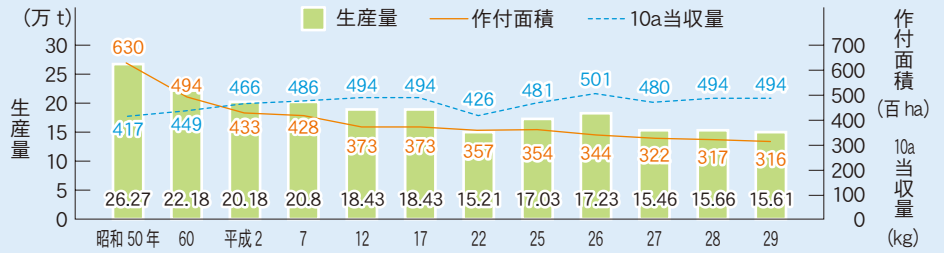
■水稲うるち米品種別作付面積割合（平成29年産）



(県生産振興課推定値)



■水稲生産の推移



(注) 陸稲を含まない (農林水産省調べ)

麦・大豆

本県は麦の主要な生産県となっており、中でも小麦については、これまで製粉業界等の実需者から比較的高い評価を得てきました。

このため、県では、今後とも実需者の要望に応えられるよう高品質な麦の生産技術の普及・定着やパン用小麦など新たな需要に対応した品種の導入を図るとともに、規模拡大等による生産性の向上を推進しています。

大豆は、麦とともに水田における重要な転作作物として生産されてきました。近年、農商工連携の取組により加工品が開発され、特徴ある在来品種の作付が増加しています。

また、平成23年度から本格実施されている経営所得安定対策の活用により、麦・大豆の一層の生産拡大を進めています。

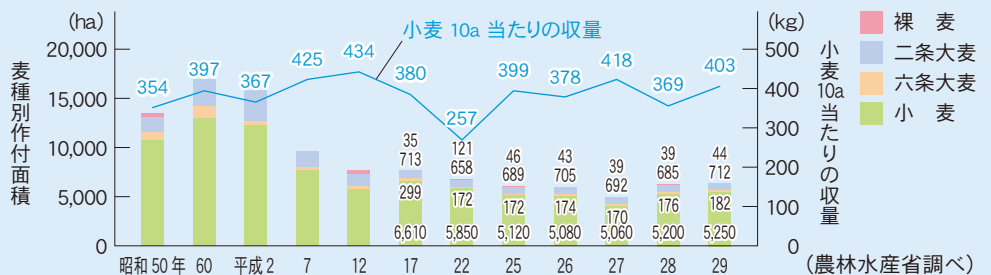
■ 29年産

	作付面積	生産量
麦類	6,190ha (全国第10位)	24,900 t (全国第7位)
大豆	679ha (全国第29位)	930 t (全国第28位)

(農林水産省統計部調べ)



■麦類生産の推移



野菜

本県の野菜生産は、農業産出額の約半分を占め、主要な作目となっています。主な産地は、さといもやほうれんそうなどの産地である入間地域、ねぎやブロッコリーなどの産地である大里地域、なすやレタスなどの産地である児玉地域などです。

また、周年的に野菜を供給するため、施設栽培も盛んで、大里・児玉・比企・北埼玉地域を中心に、きゅうりやいちご、トマトなどの栽培が行われています。最近では、農業競争力強化プログラムの決定など農業構造を大きく変える政策転換が進められており、国内外の産地間競争の激化が予想されています。このため、県では、農作業の省力化による低コスト化や集出荷体制の合理化による高品質な野菜の生産拡大、消費者や食品製造業者などの多様なニーズに対応する産地づくり、ICT等先端技術を使った施設園芸などを進めています。

■ 28年産

作付面積	収穫量
16,100ha	369,793 t

作付面積：農林水産省統計部調べ
収穫量：県生産振興課調べ

省力化機械の導入による農作業の低コスト化



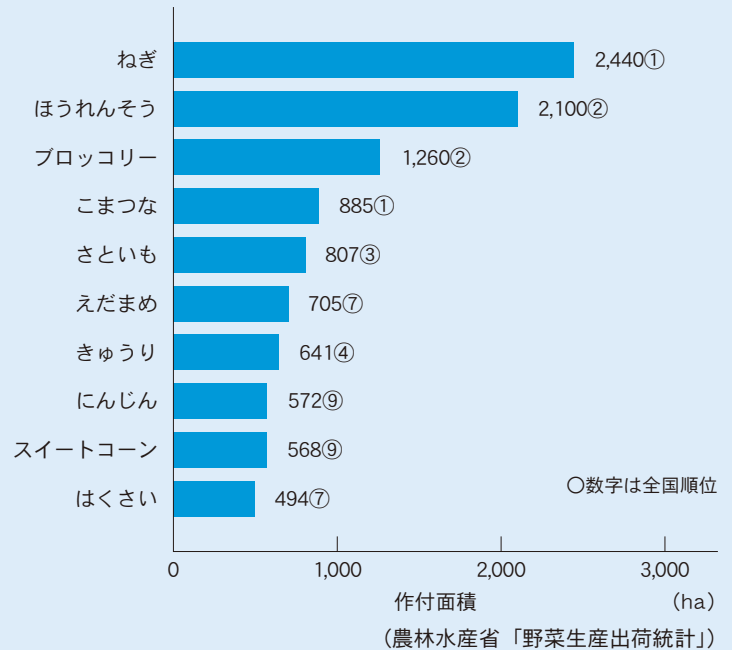
ねぎの収穫機による省力化

多様なニーズに対応する産地づくり



加工用エンジンのは種作業

■主な野菜の作付面積（平成28年産）



果樹

本県の果樹生産は、なしが果実産出額の約60%を占め、全国第6位（平成27年）となっているほか、ぶどう、くり、うめ、かき、ゆず、すももなど多様な品目が生産されています。

また、近年ではブルーベリー、いちじくなど新しい果樹の植栽も進んでいます。

■ 28年産

品目	作付面積	収穫量
なし	409ha	8,510t
ぶどう	172ha	1,480t
くり	678ha	617t
ブルーベリー	41ha	70t
いちじく	13ha	132t

(農林水産省「果樹生産出荷統計」)(県生産振興課調べ)



本県が育成した大きくて甘い梨「彩玉」



渋皮が簡単にむけるくり新品種「ぼろたん」

茶・特産物

本県の特産品である狭山茶は、入間市、所沢市、狭山市を中心とする県西部地域において栽培されており、農家自ら生産から販売までを行う形態が主流となっています。

また、繭、こんにやくなどの特産物は県西北部の山間丘陵地域において、気象・土地条件を生かした特徴ある産地づくりが行われています。

	栽培面積	生産量 (収繭量)
茶 (29年産)	871ha (全国第8位)	生葉 3,280 t (全国第12位)
繭 (29年産)	—	8 t (全国第4位)
こんにやく (27年産)	27ha (全国第8位)	466 t (全国第4位)

茶 : 農林水産省統計部調べ
 繭 : (一財)大日本蚕糸会調べ
 こんにやく : 農林水産省統計部調べ



狭山茶の主産地に広がる茶畑



埼玉県オリジナル蚕品種「いろどり」繭の出荷

畜産

本県の畜産は、野菜、米と並んで本県農業の基幹部門となっています。近年は、自給飼料の生産拡大や病気の予防による生産コストの低減、付加価値の高い特色ある畜産物の生産・加工も行われています。

また、生産県であると同時に大消費県であるという本県の特徴を生かし、ふれあい施設や直売施設を設置するなど工夫を凝らした経営や、消費者との交流に積極的に取り組む経営者も増加しています。

	飼養頭羽数 (平成29年度)
乳用牛	9,220 頭 (全国第22位)
肉用牛	17,800 頭 (全国第33位)
豚	99,600 頭 (全国第24位)
採卵鶏	成鶏メス 2,452 千羽 (全国第22位)

(農林水産省「畜産統計」)



「彩の国黒豚」ソーセージ



「彩の国地鶏 タマシャモ」

花・植木

本県の花植木生産は、深谷市を中心とする県北地域のユリ、チューリップなどの球根切り花や「安行の植木」として全国に名を馳せる県南地域の植木・盆栽類、鴻巣市などを中心とした鉢花や花壇用苗物など全国でも有数の産地を形成しています。

近年では、アジサイやポインセチアが児玉地域を中心に生産され、全国トップレベルの技術を確立しています。

県では、花植木の需要拡大を図るため、花育の推進や花植木商談会、産地見学会の開催について支援を行っています。また、県が育成した芳香シクラメンの安定生産や切り花など日持ち性向上対策への取組、公園や道路等の緑化を行うボランティアの育成、夏に適した品目の選定や展示・植栽方法を提案する「夏色花壇提案プロジェクト」もすすめています。

■ 27 年産

栽培面積
932ha

農林水産省「花き生産出荷統計」
及び「花木等生産状況調査」



県が育成した芳香シクラメン



小学生を対象とした花育教室



夏色花壇提案プロジェクト

水産

本県の水産は、養殖業と河川漁業に分けられます。養殖業については、キンギョ・ニシキゴイなどの観賞魚が主体で、本県は全国でも有数の生産県となっています。また、ホンモロコやナマズなどの食用魚も水田を利用して生産されています。

特に、ホンモロコについては、販路拡大を図るため、付加価値の高いホンモロコ生産に取り組んでいます。

河川漁業については、釣りが県民のレジャーとして定着しており、漁業協同組合が魚類の増殖等を図るとともに、河川や湖沼等の魚場の管理を行っています。

■ 28 年産

漁業養殖業生産量
232t

(県水産研究所調べ)



キンギョ



ホンモロコ



アユ釣風景

埼玉県の強みを生かした、農林業の「稼ぐ力」、農林業に係わる「人財力」、農山村の「地域力」を高める県の主な取り組みをご紹介します。

食料・農業 成長する埼玉農業を支える担い手を育成する

担い手へ農地を集積・集約するとともに、法人化等を支援することで経営力の向上を図ります。また、農業大学校等を活用し、経営感覚を身につけた新規就農者の育成を図ります。さらに、地域農業を支える多様な担い手として女性農業者や高齢者の活動促進、企業等の参入を支援することにより埼玉農業の成長産業化を図ります。

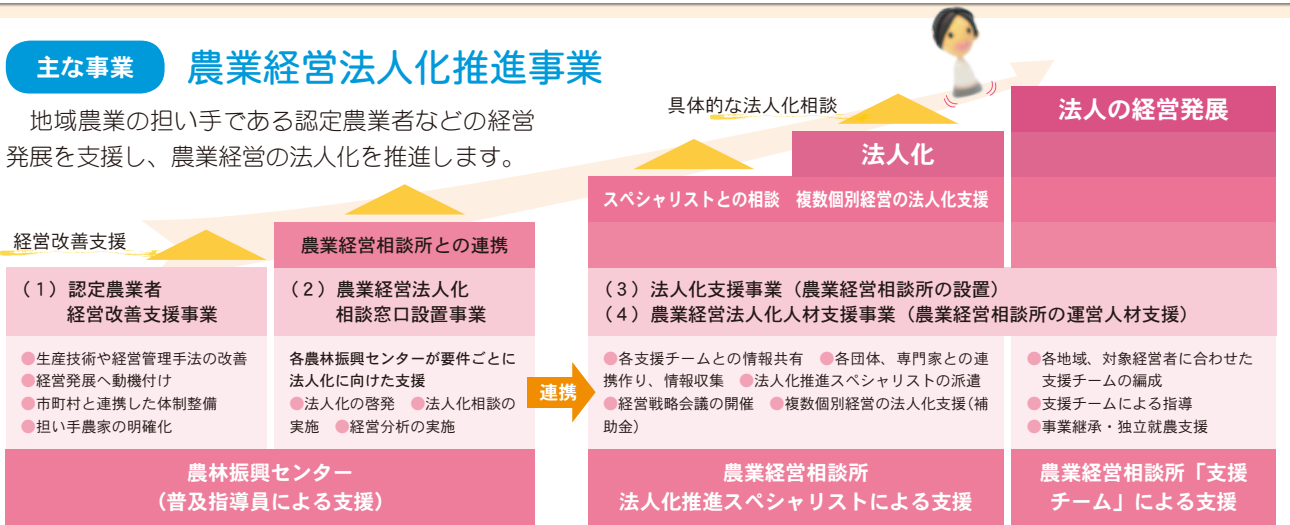
主な事業 明日の農業担い手育成塾推進事業

就農相談窓口の設置と「明日の農業担い手育成塾」の運営支援等により、農家子弟を含めた新規就農希望者の円滑な就農を促進し、多様な担い手の確保育成を図ります。



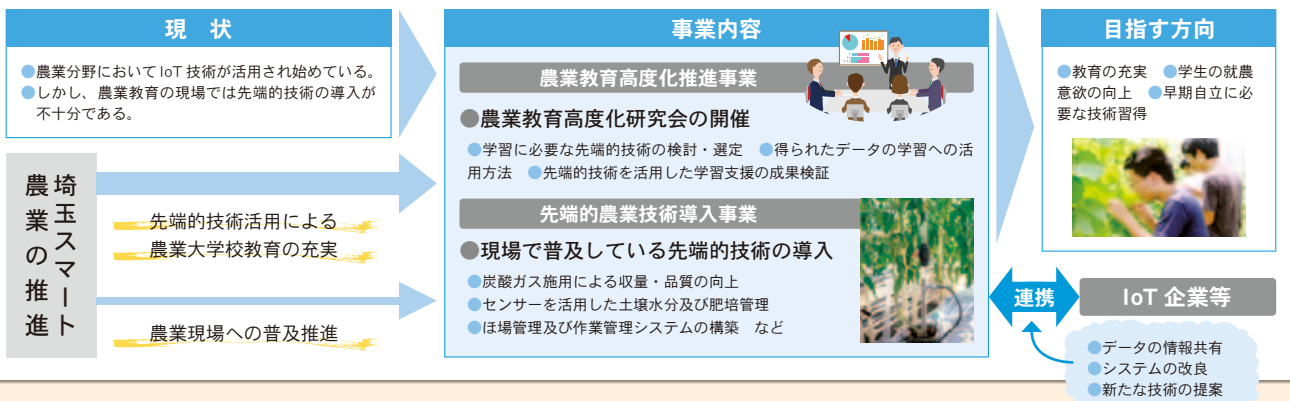
主な事業 農業経営法人化推進事業

地域農業の担い手である認定農業者などの経営発展を支援し、農業経営の法人化を推進します。



主な事業 先端的技術を活用した農業大学校ダントツ化推進事業

農業大学校において先端的な技術を活用した学習が可能な環境を整備し、教育内容の充実を図ります。



優良農地の確保と農地の有効活用を進める

農業生産の基礎となる優良農地を確保するとともに、農地中間管理事業をフル活用することにより、担い手へ農地を集積・集約し、農地の有効活用を図ります。また、低コストな農業生産基盤の整備や農業水利施設の長寿命化・耐震化を進め、生産性向上と災害の未然防止を図ります。

主な事業 農業生産を支える基盤の整備

農地の大区画化等により、農業生産性の向上と営農条件の改善を図り、農地の利用調整による経営規模の拡大や高収益を目指す農業経営体の育成を促進します。また、農業水利施設の整備により、用水不足や排水不良を解消するとともに、防災・減災上、重要な農業用ため池の耐震化と計画的な保全管理を推進し、自然災害の未然防止を図ります。

担い手を育む農地の整備

=ほ場整備事業=

- 農地の大区画化
- 耕作道路を拡幅



農業水利施設の整備

=農地防災事業=

- 老朽化した農業用ため池等の整備

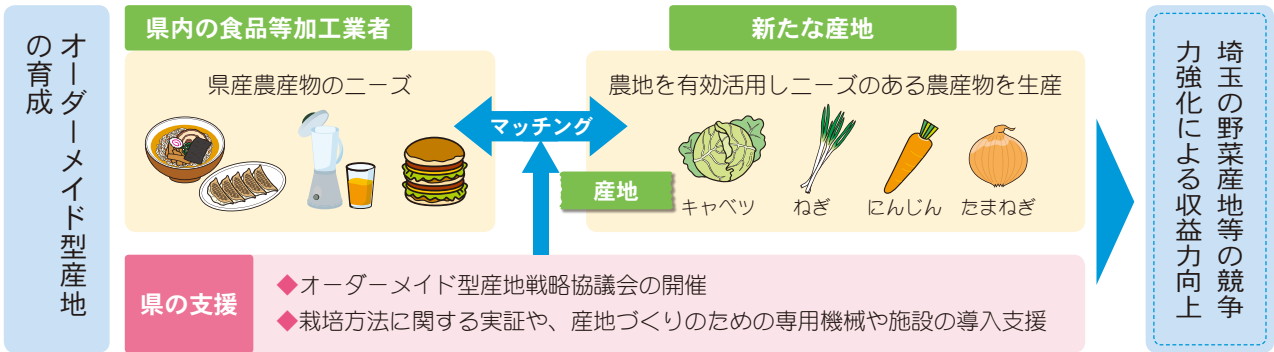


多彩な農産物の生産力を強化する

県内各産地の特徴を生かしながら、品目ごとに実需者ニーズに対応した生産体制の整備を支援するとともに、安定生産などに必要な新たな生産技術等の研究開発を計画的に実施し、県産農産物の生産力を強化します。

主な事業 オーダーメイド型産地づくり事業

加工・業務用農産物に対する需要が高まっていることから、県内に食品、医薬品、化粧品関連会社が多く立地している本県の強みを生かし、食品・医薬品・化粧品メーカーからの要望に応えられるオーダーメイド型の産地を育成することにより、生産者の経営の安定化を図り、本県農業の競争力強化を目指します。



主な事業 埼玉スマート農業推進事業

農業就業人口が減る中で、農業生産を維持・発展させていくために、農業分野にAIやドローン等を活用し、熟練農家の技術の見える化や生産性向上、作業の省力化を図ります。

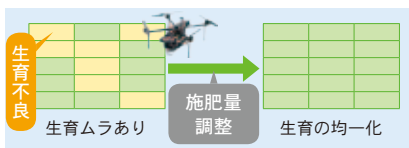
ナシの摘果判断アプリの開発

▶ AIの活用 摘果対象を表示するメガネを開発し、経験の少ない人も摘果できる仕組みを実現



米麦の作業省力化と安定生産技術開発

▶ ドローンの活用 ドローンからの撮影で、ほ場内の生育状況をマップ化し、最適な栽培管理を実現



病害虫発生予察ツールの開発

▶ ビッグデータの活用 過去の調査データ等を解析し、精度の高い予察情報を県内生産者へ提供

予察情報のイメージ		
● カメムシ発生予察 (水稲)		
発生ピーク予測	8月 1日	
防除適期予測	8月 10日	
推定発生量	平常年の2倍	

勤や経験に頼る農業から誰もが安定生産できる農業へ

埼玉農産物の需要拡大を推進する

県産農産物の需要を拡大するため、大消費地の中の農業県、食品産業立地県である強みを最大限に生かし、地産地消、農業の6次産業化、農商工連携の積極的な推進など、県産農産物が消費者に選ばれ、喜ばれるという関係性の発展に取り組みます。

さらに、本県のブランド農産物やその加工品の新たな需要先として海外への販路確保に向けた支援を実施します。

主な事業 埼玉ブランド農産物推進事業

農業所得の向上と販路を確保した生産拡大を図るため、ブランド推進品目の効果的なプロモーション活動を展開し、埼玉ブランド農産物の認知度の向上及び消費拡大を推進します。

ブランド化総合戦略推進事業

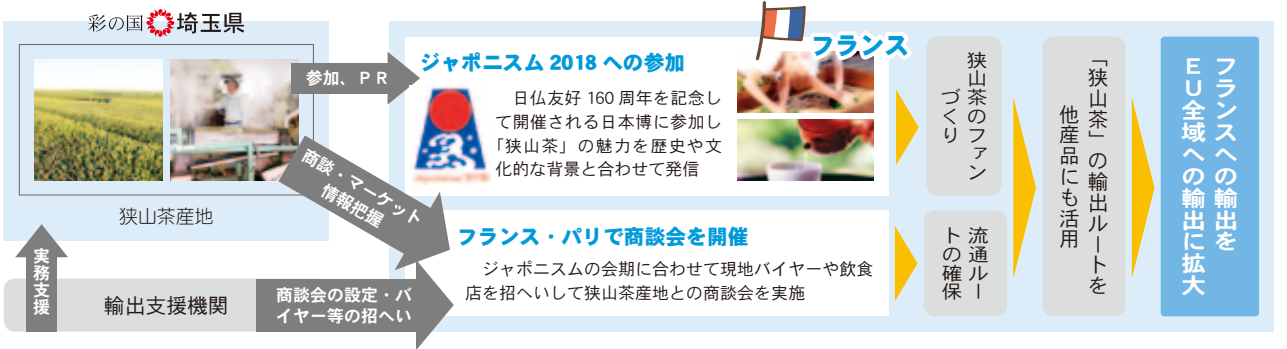
- ブランド化推進の戦略構築
- ポータルサイト等の運営

埼玉ブランド 農産物推進事業	トップブランド 農産物推進事業	地域特産ブランド 農産物推進事業
【対象品目 (例)】 ●こまつな ●ブロッコリー 【主なターゲット】 ●量販店、飲食店等の事業者 【主な事業内容】 ●バイヤー、事業者向け産地見学会	【対象品目 (例)】 ●深谷ねぎ ●狭山茶 【主なターゲット】 ●県内消費者 ●マスコミ 【主な事業内容】 ●飲食店でのフェア	【対象品目 (例)】 ●ちちぶ山ルビー ●比企のらぼう菜 【主なターゲット】 ●地域住民 ●観光客 【主な事業内容】 ●観光地等でのプロモーション

埼玉農業のブランド力向上・県産農産物の消費拡大

主な事業 狭山茶魅力発信型輸出促進事業

本県農産物の中で輸出品目として有望である「狭山茶」について、緑茶市場の拡大が見込まれるフランスへの輸出を拡大するため、産地に対する輸出実務の支援を行うとともに、フランスパリで開催される日本文化の魅力発信するイベント「ジャポニスム 2018」に出展して「狭山茶」の魅力を発信します。



食の安全・安心を確保する

消費者の安全・安心な農産物への需要が高まる中、GAP の取組促進や農産物の残留農薬調査、適正な食品表示の徹底などにより生産から消費されるまでの各段階における食の安全・安心を確保します。

主な事業 埼玉スマート GAP 推進事業

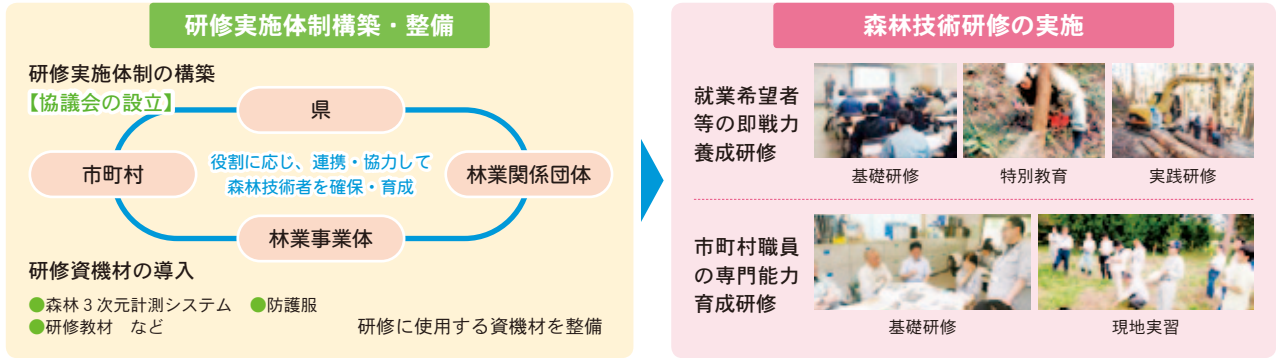
食品安全・労働安全・環境保全の取組をわかりやすく解説した県独自の GAP (S-GAP) の普及を推進するとともに、グローバル GAP 等の認証を取得しようとする農業者等を支援し、農場管理のより一層の安全性と信頼性の向上を図り、県産農産物の安全・安心を確保します。



「伐って・使って、植えて、育てる」森林の循環利用の実現に向け、森の若返りの推進、林業生産性の向上、林業生産を支える担い手の育成を図ります。

主な事業 森林技術者の確保・育成事業

従事者数が減少している林業への参入を促すため、森林・林業に関する実践的かつ専門的技術を学べる機会をつくるとともに、新たに参入する林業従事者等の育成体制を整備し、森林技術者の確保・育成を図ります。



県産木材の利用を促進する

県産木材の利用を促進するため、木材需要の多くを占める住宅分野での利用拡大やPR効果の高い公共施設等の木造化・木質化を推進するとともに、林地残材などの木質バイオマスの利用を促進します。また、こうした県産木材の利用拡大を支える安定的な供給体制の整備を促進します。

主な事業 埼玉の木みんなを使って豊かな暮らし応援事業

高齢化した人工林の循環利用を推進するため、県産木材を使用して、新築・増改築・内装木質化を行う住宅・事務所等を対象として、県産木材の使用量に応じ利用奨励の支援を行います。



森林を整備・保全する

水源涵養^{ひん}、二酸化炭素の吸収、土砂災害の防止など県民生活を支える森林の様々な機能を持続的に発揮させるため、間伐、針広混交林化、獣害対策などを適切に実施し、100年先を見据えた多様で健全な森づくりを進めます。

主な事業 水源地域の森づくり事業

水源地域において、手入れの遅れやシカ^{シカ}の被害等により荒廃し緊急に整備が必要となっている森林を対象として、針広混交林の造成や荒廃森林を再生し、水源涵養機能などの多面的機能の維持向上やスギ花粉の削減、景観向上を図ります。



農山村における生活環境を整備し、地域資源を有効に活用することにより農山村と都市部の交流や移住などの人の流れを作ります。また、本県の農業は中山間地域から都市地域まで幅広く展開されているため、その地域の特性を生かした農業を支援します。さらに、農業の持つ多面的機能の維持と発揮、鳥獣害防止対策などにより農業生産活動の維持を支援し、活力ある農山村を創出します。

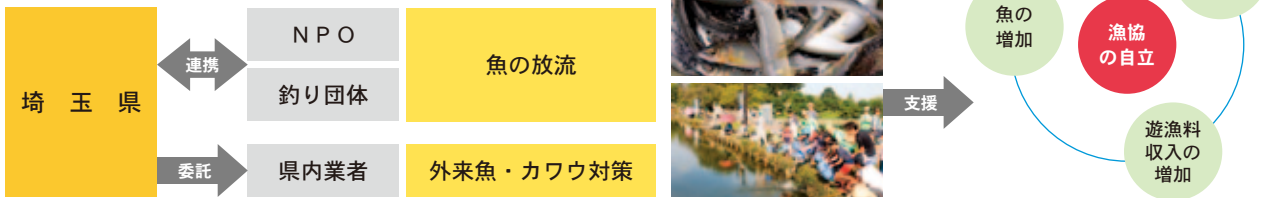
主な事業 未利用農地の利活用促進事業

未利用農地が比較的多い中山間地域において、農地の整備と地域特性を活かした農産物の導入を一体的に支援し、農産物の観光施設への供給などにより交流人口を増やして中山間地域の活性化を図ることで、未利用農地の利活用を促進します。



主な事業 魚影豊かな川づくり推進支援事業

外来魚・カワウ対策を支援することにより魚が増え、釣り人が増加し、遊漁収入の増加につながる好循環の仕組みをつくります。



県民の農林業・農山村を大切にする意識を醸成する

農林業・農山村の重要性を理解してもらうため、グリーン・ツーリズムや市民農園での活動、花育、木育といった体験・学習・交流など、県民が農林業・農山村に触れ合う機会をつくります。また、健全な森林を次世代に引き継ぐため、社会全体で森林を守る気運を醸成して、県民参加による森づくりを促進します。

主な事業 みんなで育てる森づくり事業 ～森林ボランティア活動の拡大～

広く県民が森林の大切さを理解できるよう、森林活動を体験する機会の充実や森林ボランティアの活動等を支援します。



農林業・農山村の多様な役割

本県の農林業は県民への食料の安定供給や木材生産といった基本的な役割に加えて、県土の保全、水源の涵養、水質・大気浄化、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など多様な役割を担っています。



(さいたま水族館提供)

元気いっぱい!! 埼玉農林業



<https://www.facebook.com/saitama.nourin>



https://twitter.com/saitama_nourin

2018年
「埼玉の食料・農林業・農山村」
平成30年7月発行

編集 発行：埼玉県農林部

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3丁目15番1号
電話 048-830-4031

